

農作物技術情報 第4号 野生獣対策

発行日 令和8年6月25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 クマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ 侵入防止対策 野生獣に直接痛みを与えられる電気柵が最も有効です。
- ◆ ニホンジカの特徴と対策 40～130 cmの4段を基本に電気柵を設置しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 例年に比べてクマの人里への出没が相次ぎ（図1）、死亡につながる人身被害が今年度に入って既に3件発生するなど（図2）、これまでにない危機的な状況となっています。
- ・ 今後もリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、クマ出没状況アプリ「Bears」（図3）などにより出没状況を確認するとともに、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

（件）

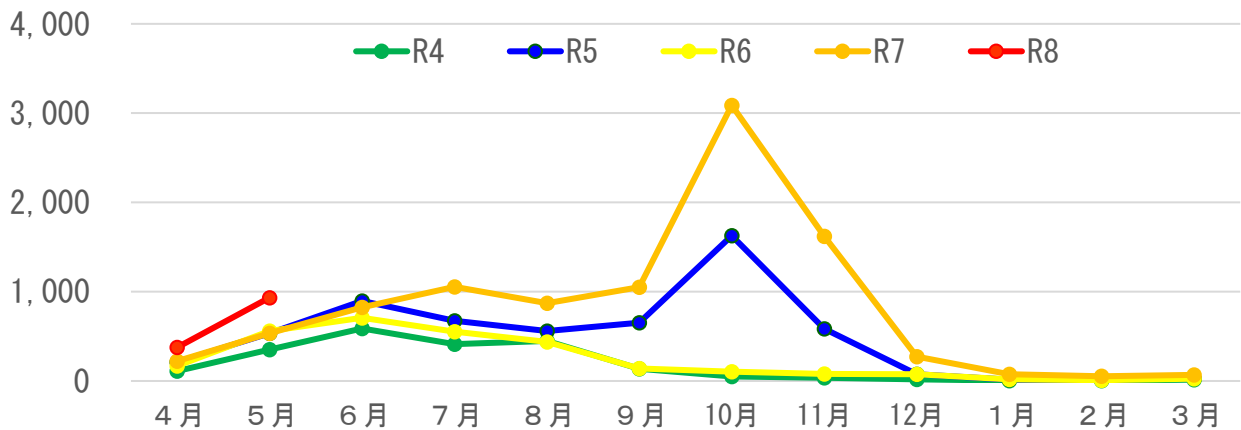


図1 クマの出没件数

（件）

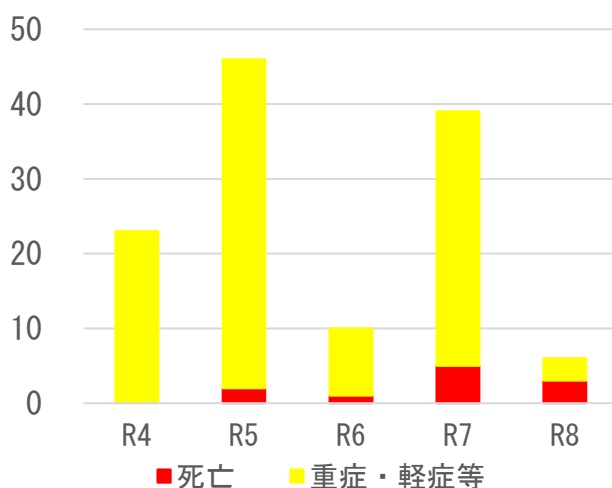


図2 クマによる人身被害



こちらの2次元バーコードから登録できます



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」

2 侵入防止対策①

(1) 侵入防止対策の考え方

- ・ 農作物の被害対策は、①「生息環境管理（よせつけない）」②「侵入防止対策（まもる）」③「捕獲（とる）」の3つの取組が基本になります。
- ・ このうちの②侵入防止対策として、現状では野生獣に直接痛みを与えることができる電気柵が最も有効な対策の一つになります。
- ・ 一方、におい、光、音などの「威嚇」による忌避効果を狙った資材などに対し、最初は野生獣は警戒するものの、学習能力により安全と判断した場合には、再びほ場に侵入します（写真1、2）。
- ・ 「威嚇」による忌避効果を狙った資材等で、防御効果が一定期間期待できるものはないため、使用する際は注意が必要です。



写真1 爆音機のを聞いても食べ続けるシカ



写真2 光に驚かないイノシシ

(2) 電気柵の特徴と使い方

- ・ 電気柵は「心理柵」とも呼ばれるように、野生獣が電気刺激による痛みを学習し、その後は野生獣が自ら近寄らないようにするものです（[農作物技術情報第2号](#)参照）。
- ・ 野生獣の体は毛皮で覆われており電気を通しにくいため、野生獣が初めて電気柵に近づいてワイヤーを鼻や唇で確認した際に電気ショックを与えることが重要です（写真3、4）。



写真3 電気が通る部分



写真4 電気柵に触れて逃げるクマ

- ・ また、野生獣は、電気柵に対して低い位置から潜り抜けようとする性質があるため、低い位置から適切な高さに設置することがポイントです（表1）。
- ・ 高い跳躍力をもつシカでも、着地時の足の怪我は生死に関わるリスクが高いため、ジャンプをするのは人間に追われるなどの危険を察知した時が大半です。

表1 獣種別の電気柵の地上部からの高さ (単位：cm)

獣種	20	40	70	100	130
ツキノワグマ ・イノシシ	○	○	○		
ニホンジカ		○	○	○	○

3 野生獣の特徴と対策①：ニホンジカ

(1) 被害の現状

- 野生鳥獣による農作物被害について、本県ではシカによる被害が最も多く、被害金額の約6割を占めています(農作物技術情報第2号参照)(写真5)。
- シカによる農作物被害面積は近年減少傾向にあり、令和6年度の被害面積は令和5年度と比較して73ha減少しましたが、被害金額は2億5000万円前後で横ばいとなっています(図4)。
- 品目別の被害金額は、稲、飼料作物、果樹の順となっています(図5)。



写真5 果樹園に侵入したシカ

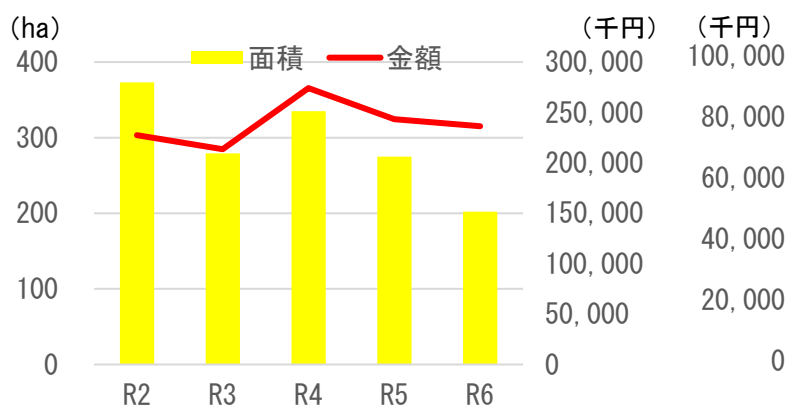


図4 シカによる被害面積及び金額の推移

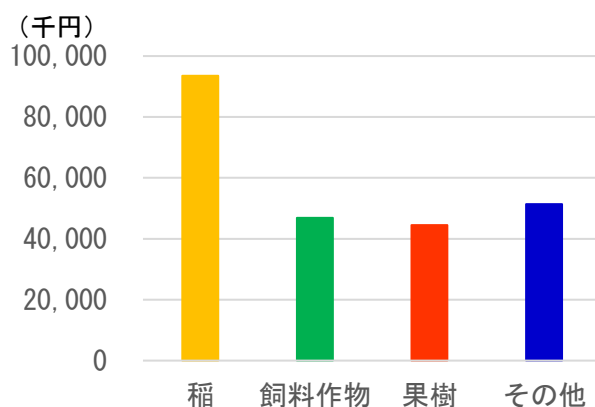


図5 シカによる上位3品目被害金額 (R6)

(2) 生態

食性	草食
繁殖	1年1回1頭
群れ構成	オスは基本的に単独行動 メスは母子の群れで行動 繁殖期はハーレムを形成
その他	生息密度が高くなると、様々な草を食べ尽くすことにより土が露出し、雨で表土が流され土砂崩れの原因にもなる。

(3) 対策

- 藪を刈り払うなどの「①生息環境管理(よせつけない)」を行うとともに、電気柵による「②侵入防止対策(まもる)」を行います。
- 電気柵は、表1のとおり「40、70、100、130 cm」の4段を基本としますが、クマ又はイノシシの侵入の可能性がある場合は、最下段に20 cmを加え計5段とします。
- シカの生息密度が高く、①及び②の対策のみでは被害を抑えられない場合は、市町村に相談し、「③捕獲(とる)」により対応します。
- シカのは場への侵入に対し、電気柵の設置に問題がないか、定期的に電気柵の設置状況を点検す

ることが重要です。

- ・ ほ場周辺に斜面がある場合は、斜面側からジャンプしてほ場に侵入する可能性を考慮し、**電気柵は斜面から離して設置**します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。